

「悪魔の誘惑」井上隆晶牧師
出エジプト記20章1～7節、マタイ4章1～11節

①【人間はいつも飢えている】

イエス様は悪魔から誘惑を受けるために、“靈”に導かれて荒れ野に行かれました。“靈”とは「聖靈=神」のことです。神がイエス様の手を引いて悪魔の誘惑に遭わせたということは、神は悪魔の誘惑を許可しているということです。これはエデンの園の中央に生えていた命の木と善惡知識の木を思い出させます。この二本の木は、「神によって生きる生き方」と、「神から離れ、自分の力と知識で生きる生き方」の二つの生き方を象徴しています。人間は最初から、生き方を選択する自由が与えられていました。しかし最初のアダムは悪魔に誘惑され、自分の力で生きる誤った生き方を選択したのです。それを堕落といいます。しかし新しいアダムであるイエス様はそれと同じ誘惑を受けることをもって、アダムの不従順を回復しておられるのです。

「そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた」(2節)とあります。人は40日も断食しなくとも1日、いや一食抜いただけでも空腹を覚えます。40というのは試練を現す象徴数です。「空腹」という言葉は英語では「hungry」です。人はいつも飢えています。愛に飢え、慰めに飢え、優しい言葉に飢え、命や平安に飢えています。一時的に満たされてもすぐに飢え渴いてしまい、決して満たされません。「hungry（飢え渴き）」とは人間性をもっとも表す言葉です。

②【三つの誘惑】

(1) すると誘惑する者、つまり悪魔が来てイエス様に言いました。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」神によって生かされるのではなく、自分の力で食べ物を手に入れたらどうだというのです。しかし主は「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」(4節)といわれ、石をパンに変えることをしませんでした。これは旧約聖書申命記8:3からの引用です。人間の最大の悩みは「食べていけるか、つまり生きてゆけるか」ということです。生きるために人間は科学技術を進歩させ、医学を発展させ、食料を保存し、穀物や家畜や魚を飼育して増やす技術を身につけました。私たちは食べ物に困らなくなっています。日本は食べ物が有り余っています。でも食べ物が豊かになったからといって心は満たされたでしょうか。いいえ満たされません。2025年度の小中学生の自殺が過去最高になりました。いくら物に満たされても、人の魂の飢え渴きは癒されません。

(2) 次に悪魔はイエス様を神殿の屋根の上に立たせ、飛び降りて見せろといいます。しかも悪魔は聖書から御言葉を引用して誘惑してきました。「神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、

「天使たちは手であなたを支える。」と書いてあるではないか、というのです。これは詩編91篇11～12節からの引用です。しかし主は「あなたの神である主を試してはならない」（7節）といわれ悪魔の誘いを拒否しました。これも申命記6章16節からの引用です。悪魔が聖書を用いるからと言って驚いてはいけません。統一協会も私たちと同じ聖書を読みます。ただ自分に都合の良い個所を選び、自分に都合の良いように解釈します。聖書はもう刃の剣です。読み方でどのようにも解釈できるのです。「主を試す」という言葉は最初、私は意味が分かりませんでした。でもこの箇所を保育園で紙芝居にして子供たちに語った時、分かったのです。自分が神よりも偉くなつて、神を自分の僕にさせ、自分の願いごとを達えさせようとすることです。これは今のほとんどの日本人が無意識にしていることです。自分の願いを聞きそうな神を選び、聞いてくれなければさっさと別の神に乗り換えます。家来が多い方が良いように、自分の言いなりになる神は多い方が良いので、たくさんの神々を家の中に置きます。

（3）最後に悪魔はイエス様を非常に高い山に連れて行き、世の国々と繁栄を一瞬に見せ、悪魔を礼拝するならこれをすべて与えるといいます。悪と妥協し権力と富と力を手に入れれば、お前は神のように強くなり生きれるというのです。しかし主は「退け、サタン。あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」（10節）といわれます。这也も申命記6章13節からの引用です。これは政治家がよく犯す罪です。統一協会と手を結んで選挙の票を獲得し、権力を手に入れさえすれば、自分の思い通りの政策を実現できると思った政党があります。また、周りの国々が戦争をしかけてきたらどうするのか。やはり勝つためには防衛費を増やすのは仕方がないではないかといいます。力を手に入れて強くなれば生きれるというのです。しかしイエス様は何と言われたのか。「剣を取る者は皆、剣で滅びる。」

（マタイ26章52節）人に殺されても天国に入れますが、人を殺したら私の魂が死にます。私たちを滅ぼすのは人ではなく私たちの罪なのです。

この三つの誘惑は、結局その根は一つです。それは十戒の第一の戒め「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない。」（出エジプト20章3節）を破らせようとするものです。あなたが神になれ！という誘惑です。これを破ればそれ以下のすべての戒めは破れるのです。皆さん、聖書の中で最大の罪とは何だか知っていますか？それはこの十戒の第一の戒めです。神を主人と出来ないという罪です。神に従えないという不従順の罪です。これが最大の罪なのです。イエス様は、主の祈りにおいて、最初に何を祈れと命じていますか？「神の名が崇められ、聖なるものとして崇められますように」というものです。今の日本人の99%がこれを守っていません。ではクリスチヤンはどうですか？プーチンもトランプもキリスト教徒ですが、自分が主人になっています。神が与えた物で満足できず、地境を移し、地上の資源を手に入れるために戦争を起こしています。イスラエルの首相ネタニヤフはユダヤ教徒であり、十戒を知っているはずです。でも守りません。誰も神に従いません。誰も神の戒めを守りません。誰も神に聞けません。皆が、神々のようになっています。

地上に生きている多くの人が、これを守っていないのです。これは大変なことです。しかもそれに気づかず、平気で「私は何も罪を犯していない」と言います。まるで昔のエルサレムの民のようです。教会から離れて行ったクリスチャンたちも守っていません。私の子供たちも守っていません。皆、自分が主人です。人を裁いている暇はありません。誰かが執り成しをしなければなりません。

●クロンシュタットのイオアン神父は「教会は毎日、母の愛をもって、私たちをその両腕に抱き、すべての人々のために絶えず、夕方、夜、朝、日中を問わず主なる神に祈りをささげています。教会は、私たちを教え、清め、癒し、高め、強め、救いと永遠の命の道に導いてゆきます。」と言っています。

教会は、人々の罪、キリスト教徒の罪、家族や子供たちの罪が赦されるように祈らなければなりません。そして神を本当に神として敬い、従う人が起こされるように祈り続けなければならないのです。

③【人間にとどまること、つまりキリストにとどまりなさい】

最初のアダムは「神のようになる」（創世記3章5節）という言葉で誘惑されました。ここでも「神の子なら～をしてみろ」と悪魔はイエス様に言います。それは十字架の場面でもそうでした。「神の子なら、自分を救ってみろ。十字架から降りてこい。」（マタイ27章40節）しかしイエス様は徹底的に神に従う一人の人間としてとどまり続けます。

●V・フランクルというユダヤ人の精神科医師がいます。彼は第二次世界大戦の時、アウシュビツ収容所に入れられました。彼は生き延びて、その体験談を本にしましたが、その過酷な環境の中で「人間は悪魔にも天使にもなれることを知った」と言っています。また彼はこのように書いています。「人間の自由というのは、諸条件からの自由ではなくて、これら諸条件に対して、自分のあり方を決めてゆく自由である」

あなたは天使になりたいですか？悪魔になりたいですか？私たちは放つておけば落ちてゆきます。どこまでも落ちてゆきます。悪の力が働いているからです。でも、神はその落ちてゆく人間を天に引き上げ、まことの人間にするために来てくださいました。まことの人間とはイエス・キリストのみです。人間にとどまることは、キリストにとどまることです。それはまたキリストの言葉にとどまるということです。キリストから離れず、キリストに似た生き方をすることです。

ブラザーサン・シスター・ムーンという映画がありました。中世のイタリアのアッシジのフランシスコという修道者の生涯を描いた映画です。クリスチャンになった若い頃に見ました。フランシスコは歌います。「神に与えられた命、私にも神は宿る、その愛がいま、この胸によみがえる。」私たちは神に造られた良いもの、私にも神が宿ってくださるのであります。人間にとどまり、人間になる努力をしよう、神様に祈りその力を求めようと思うのです。